

きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第25号

令和8年3月
和歌山県
長寿社会課

支え合い事例紹介 海南市

外出支援ボランティア 「乗ってって海南」

海南市北野上地区では、令和6年度から外出支援ボランティア「乗ってって海南」が買い物支援を実施しています。

今回、実際にみなさんの活動に同行させていただき、代表の尾崎さん、副代表の寺本さん、利用者みなさんにお話をお伺いしました。



右端：尾崎代表 左端：寺本副代表

「乗ってって海南」の立ち上げ

尾崎代表を含む10名ほどで社協が主催する運転者講習に参加したことがきっかけ。自分たちが運転できなくなった時に困らないよう、今からその仕組みを作っているというお話になったそうです。

特に北野上地区は買い物をする所がないこともあり、まずはこの地区で健康な方を対象としてやってみようということに。その後は、他自治体への視察、県アドバイザー派遣の活用、地区住民へのアンケート調査、協力機関等との話し合いを重ねて、令和6年10月からモデル的に活動を開始されたとのことです。

ココがすごい！

「乗ってって海南」の活動内容

現在は、月2回程度、①貴志川方面コース、②野上方面コースの各コース1回ずつで買い物支援を実施しており、料金は1回400円（チケット制）、基本的には自分の身のまわりのことができる方を対象にしているとのことです。

※個別に相談があれば、上記コース以外への移動支援も柔軟に実施

令和7年10月からは亀川地区でも活動を開始。

12月末時点で、両地区合わせて延べ140名以上の利用があったそうです。

運転ボランティアは6～7名ほどで対応。

今後は、運行車両やボランティアの不足が課題となるため、この活動をもっとたくさんの方に知っていただくことで、協力者や仲間を増やしていきたいと力強くおっしゃっていました。



この日は、特別養護老人ホーム天美苑からお借りした車両を使用

地元団体等との協力・連携

公民館は予約申込の受付、社協は運転手の調整、特別養護老人ホーム天美苑・NPO法人ゆうゆうスポーツクラブ海南には車両の貸出など、地域の団体や施設と協力して取り組んでいることが大きなポイントとのことです。

「乗ってって海南」利用者の声

- ・移動手段がなくなって外出することが少なくなっていたけど、乗ってって海南のおかげで毎月買い物にきて友達とおしゃべりするのが楽しみ。(本日利用されていた3人は、乗ってって海南を通じてさらに仲良くなったとのこと！)
- ・運転をしてくれるボランティアさんは何でも気軽にお話ししやすい方ばかり。車の乗り降りや見守りやお手伝いはもちろん、自宅まで迎えに来てくれるし、重い荷物も玄関まで運んでくれたりとても親切。
- ・買い物だけでなくカラオケやランチへ行くのにも利用させてもらってる。



買い物後のおしゃべりの様子

みなさんにお話をお聞きして、乗ってって海南が実施する外出支援は、単なる移動支援ではなく、人と人との交流を生み出すきっかけづくりや社会参加、閉じこもり防止につながっていると感じました！



生活支援コーディネーターの想い

第1層SCとしてこの活動に関わっている村木さんにも、「乗ってって海南」への想いをお伺いしました。

- ・今の暮らしがより楽しく豊かになることや、地域の顔が見える関係づくりにつながれば嬉しい（単に移動だけを目的としない！）
 - ・今後は、通いの場への送迎など、活動の幅を少しずつ広げていきたい
- ということをおっしゃっていました。

利用者の中には、認知症の方、義足の方など色々な方がいらっやあって、この活動を通じて私たち自身も多くの気づきがあり、それが地域のつながり、支え合いの推進にもつながっているというお話が印象的でした。



村木第1層SC



地域で創り育てるささえあい農園

海南市巽地区では、農園を通じた地域でのつながりづくりを実施しています。今回、協議体の定例会に参加させていただき、協議体メンバーや第2層SCの方にお話をお伺いさせていただきました。

支え合い事例紹介 海南市「巽ささえあいファーム」

海南市巽地区では、第2層協議体「巽ささえあい」が、令和7年4月から休耕地を活用した地域農園「巽ささえあいファーム」の運営を開始しました。

地区内の地域食堂（子ども食堂）、高齢者施設、障害者施設など、障害の有無や世代を超えて、地域住民のつながる拠点となっています。

代表の南さんにお話をお伺いしました。



「巽ささえあいファーム」始動のきっかけは？

協議体定例会で、メンバーから農園を通じたつながりづくりをやってみたいとの声が出たのがきっかけ。ささえあいメンバーの知人が休耕地を所有していたため、メンバー数人でお願いをしに行ったところ、快く貸してくれることになったそうです。

メンバーが農作業経験者だったこと、トラクター等の農機具を所有していたことも大きかったとのことです。

活動内容は？

さつまいも等の農作物を地域と協働で作っています。近隣住民（子ども含む）やグループホームの方との収穫祭、地域食堂への野菜の寄付、農協「とれたて広場」での販売（自立的な運営を見据えて！）等もされたとのこと。デイサービス利用者の認知症の方が販売用ラベルシールのイラストを作成したり、地元の中学生在が看板の作成を担うなど、地域の方々と一緒に活動されているとのことでした。

活動の目的は？

地域で助け合い・支え合いができるつながりをつくるため、「つながり始める場所」としてみんなが集える居場所を作りたい。

今後は、野菜の出荷時の袋詰め作業等を高齢者・障害者施設の方と連携して行うなど、地域でより多くの仲間を増やしていきたいとおっしゃっていました。



地域食堂への寄付の様子



看板を作成してくれた巽中学校のみなさん

協議体定例会（隔月に1回開催）

協議体メンバー11名（自治会、老人会、女性会、民生委員、公民館の有志）が集まり、地域の問題点や長所を活かして何ができるか、何をすればよいか話し合っています。

（メンバーから次々発言がありました！）

定例会で共有されていたこと

今回見学させていただいた定例会では、具体的に下記の内容が共有され、活発な議論がされていました。

- ・地域活動聞き取り調査結果
⇒年1回、協議体メンバーが地区内の集いの場で聞き取り調査を実施
運営支援や新たな集いの場の立ち上げ支援につなげている
- ・巽ささえあいファームの進捗（今後の方針）
- ・協議体運営費（助成金の活用等）
- ・協議体メンバー加入の声掛け 等



定例会の様子

生活支援コーディネーターの想い

SCとして心がけていることを中野さん、木村さんにお聞きしました。

- ・住民さんがやりたい・やってみたいことを全力で応援！！
 - ・関係機関を巻き込むことを意識
 - ・何事も一緒にやってみる！！
- そこから住民さんとの信頼関係の構築を大事にしているとのことでした。

実際に、協議体メンバーとSCのお二人のやりとりを見ていると、お互いに役割分担をして、チームワークで活動されていて理想的な1つの形だと感じました。



右端から第2層SCの木村さん、中野さん、南代表、柴川さん（協議体メンバー）

県からのお知らせ

- 県では「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。
- 皆様の取り組みを紹介させていただきます。県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。

連絡先：和歌山県長寿社会課 電話：073-441-2521